

校内研究だより

町田市立金井小学校
2018年7月20日
研究推進部

学期末の忙しい時に2年生国語「スイミー」の研究授業での提案ありがとうございました。

学級規律がしっかりできている。先生の声を一息懸命に聞き、お互いを認め合っている。安心して意見が言える雰囲気がある。など学級経営がうまくいっていると講師の先生からも話がありました。

グループ協議会でのみなさんの発言より

※太字は、多数の意見です。

子どもの姿	教師の指導	その他・やってみたい
<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発言に対する反応があたたかい。 ・話形を使って、スムーズに意見交換していた。積み重ねを感じた。 ・聴き方のコツ、認め言葉、子ども相互の繋がり、ペア交流の成立、言葉の広がり等できている。(なるほど～。○さんどうですか?) ・全体での伝え合いで、子ども達が自ら意見のつながりを見つけていた。 ・学習の規律・挙手・返事の仕方がしっかりしていた。 ・友達の考えに興味をもって聞き、それに対して感想をもつことができている。 ・スイミーの気持ちをのびのびと言葉で表現している。 ・先生の声がでなくても目と耳と心でしっかりと聞き取っていた。 ・ワークシートnたくさんの気持ちを書き込めていた。集中してたくさん書けたことが読みを深めていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達のどんな意見も受け入れる姿勢良かった。 ・先生が子どもの良い考えを把握していて指名していた。 ・「なるほど、いいね。」「たくさん手を挙げてくれてうれしいなあ」「本当のスイミーみたいだよ」等先生の声かけでやる気になる。 ・「大きな未来」「光」「本気」など子どもから出てくる言葉を先生が上手く拾いながらまとめている。言葉かけが統一されている。 ・押さえておきたい言葉は先生が拾って再確認している。 ・先生の話し方、表情も明るく安心して学習ができる空気を子どもと作っている。 ・一つ一つの言葉がきれいで「短く」言うことができていた。子どもの言葉をつなげられていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方のコツが掲示されている。学習の流れもあり、見通しがもてて良かった。 ・今までの学習の流れが教室掲示としてしっかり残っていて振りかえられるようになっていたのがよかった。 ・今までの先生方の良いところを早速実践されている塩沢先生がすてき。素直な学びの姿勢がそのまま子どもにも芦原れている。
<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を書くのに必死で、意見をあまり聞けなくなってしまう。 ・ペアの相手は変えなくてもよいのか? ・いっぱい意見が書けていたので、みんなと立って練習してワイワイやってみたらどうか? ・一部の子は良く頭を働かせていたが、後ろの子はただ板書を写す活動に終始していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いて発信するのか、ワークシートに書くのか、読みを深めるための活動を一つずつにしたほうがいい。 ・最後のまとめで、感想を書く人、スイミーの気持ちを書く人、結果を書く人など書く内容が何か。難しい。 ・全体共有の時間が長く感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習してきたことと、ワークシートの言葉の違いで、とまどいを感じた。 ・リアクションのよい子が持って行ってしまった。あの時、そうする? ・軸とのかかわり、最後のまとめ方が難しい

講師 谷戸玲子校長先生(新堀小)より

- 子供たちのひたむきさ、一生懸命さが伝わる授業でした。
- 学習のルールがしっかりしているから認め合い、安心して意見が言い合える人間関係が築けているので、学級経営としても大変良いです。
- 話型、書く力、友達の考えを書く力など育っている。
- 一問一答を脱するためには、能動的な授業をしていく必要があります。

能動的な授業

- 機械的に解釈をしたり、説明をさせたりする授業は、心が動かない。つまらない授業になる。「すごいな!」「へえ〜」「どうしてだろう?」など心が響いて何かを感じた時に対話をしたくなる。
- **対象**に自分が向かっていくことが**主体的**である。ここを理解することが**能動的な授業**につながる。
- 文章の奥にある心を響かせる文を直感的にとらえる。短い言葉にする。(洞察力)文章を読むのに完璧でなくても良いので、全体をみる力を付けるために直感を大事にする。
- そのためには、教師は子供の深まるポイントを逃さない目をもつこと。

今日の授業での課題点

- めあて「大きな魚を追いだしたときのスイミーの気持ちを読み深めよう」を一斉に読ませたが、難しすぎのではないか?一人一人が今日の1時間で何を深めようとしているのか。その構えをもつために前時にワークシートを書かせているので、本時では、「スイミーの気持ちを話そう」でいいのでは。そこから十分深められる。
- 細切れに教師が区切ることで、子供の思考が切れてしまう。場面全体を通して、好きに話させ、教師がつなげていくことで深まる。板書でどうつなげられるか?教師の技術面。
- 教師の筋書き通りではないが、子供の思考の自然な流れで、動作化にもっていくような柔軟性が欲しい。
- 教師が親切に次々に発問を追加するうち子供の自由な思考を止めたり、混乱させたりしてしまうことがある。厳選した短い発問を心がけるとよい。
→最後のまとめは、「今日の授業で良かったこと」など感想でも良いのでは?
- 研究授業で学級集団が上がることがある。今発言をたくさんして、伸びた子もいるはず。書くことに専念してなかなか発言できなかった子を文章で生かすか、発表させるのか。目的をもって、生かす場面を作るとよい。

能動的な子どもに育てる

- 例えば、特別活動でリーダーを育てるためにいろいろな活動をさせていても、毎日の授業で受け身にしては、子供の能動的な思考は育たない。
 - ×一問1答の授業
 - ×先生の答えを探すような授業
- 毎日の授業の中で取り組んでいくと自分の思考が様々なところで動く体質ができる。
 - 大事な言葉を押さえる。文章の言葉に響いたところはどこか?そればなぜか?自分なりの訳を説明できるような癖を付ける。
 - 一番言いたいことを良く伝えている文を選ぶトレーニングをする。どれが正解かではなく自分にとっての根拠を伝えることが大切
- 低学年のうちに語彙を増やしておくこと。